りょうく 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能 夢前ひまわりホーム
所在地	(〒 671-2122) 姫路市夢前町置本 439-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

病気を抱えていても医療・介護の専門家の目が届く環境で、他の機関や家族と連携を取り、医療依存度の高い方も積極的に受け入れ、「通い」「宿泊」「訪問」を柔軟に組み合わせたサービスを提供し、住み慣れた自宅で自分らしく「いつもの暮らし」が継続できるよう家族や地域と共に支えあえる施設づくりを目指します。

多職種連携にて各専門職の知識・技術を持ち寄り、専門性の高いQOL（生活の質）QOD（終末期の質）の向上を目指しています。計画的に機能訓練を実施し、残存機能を維持・向上させ在宅生活の継続を支援します。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 4 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 3 月 21 日	出席人数（合計）	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	☐ 自事業所職員 (3)人 ☐ 市町村職員 (___)人 ☐ 地域包括支援センター職員 (1)人 ☐ 地域住民の代表者 (1)人 ☐ 利用者 (___)人 ☐ 利用者の家族 (1)人 ☐ 知見を有する者 (1)人 ☐ その他 (___)人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	毎月の看多機会議、毎日の昼礼や申し送りノートなどを活用し、情報の共有を行い、業務の統一を図る。 委員会や研修会に参加し、理解を深め日々の業務に生かす。	職員で共有すべき情報は昼礼や申し送りノートを用い確実に伝達し、業務や利用者対応に繋げた。 委員会活動に参加し、介護方法、事故防止に向けた取り組みを学んだ。	職員全員が同じ目標を持ち取り組むことは大切。報告・連絡・相談を軸に職員間の連携と、利用者へのサービスの向上に努めてほしい。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	引き続き毎月の研修や勉強会、委員会活動などを通じて専門性を高め、職員一人ひとりの知識と意識の向上を図る。 看護師、介護職員それぞれの専門性を生かし、得られた知識を業務の中で実践していく。	職員一人ひとりが講師となり施設内研修を実施。個別で外部研修にも参加しそれぞれの専門性を高めた。 看護・介護と一緒に業務を行うことでそれぞれの役割を理解し、事業所一体でスキルアップを目指した。	常に上を目指し専門性を高める努力は必要。今後も積極的に研修にも参加してほしい。・チームでよく連携が図れている。今後も利用者の特性や状況に応じた専門的なサービスを提供してほしい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	病院からの退院については退院前カンファレンスへの参加や入院時はFAXを連絡ツールとして介護情報、看護サマリー、内服情報など確実に送受信する。	医療機関や主治医、地域連携室などと連携を密にとり、情報の共有を行った。 異常の早期発見に努め、利用者の健康管理にも努めている。	医療ニーズの高い利用者も増えている。今後も連携を密にし、早期発見、早期対応し、利用者の体調管理に努めてほしい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	現在でも病院では面会制限が行われている。「住み慣れた地域で家族と共に最期を迎えられる。」という看多機の強みを地域に発信していく。	委員会や施設内研修を通し、看取りの研修を行い、知識や対応方法を学んだ。 地域の介護認定を受けていない方や要支援の方にも代行申請やサービス利用の手続きの介助を行った。	自治会や民生委員と協力し、地域の方々が安心して過ごせる環境づくりに貢献してほしい。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看護小規模多機能の特性を発信し、看多機というサービスを地域の方に理解していただくことで、医療ニーズの高い方の受け皿となっていく	地域連携室や主治医と連携し、介護度の高い方や医療度の高い方の受入れを積極的に行った。	施設の特性を多くの人へ周知を図り、今後も医療ニーズの高い人の在宅介護の受け皿になってほしい。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		職員間での情報の共有や業務の統一などは概ね行っている。 研修にも力を入れており、事業所内研修と法人の委員会活動による研修も実施できている。	各職員が年度初めに計画を立て、施設内外の研修へ参加しスキルアップを目指す。 BPC 作成が義務化となっているため、内容の見直しや必要な訓練を行っていく。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	看護師・介護士が連携しチームで協力し業務を行うことができた。コロナ感染などの対応もお互いの専門性を発揮し、取り組むことが出来た。 看護師が講師となり医療的な研修も行っている。	多職種が協働する特徴を生かし、それぞれの目線からアプローチし、状況変化の予測やリスク管理を行う。 利用者、家族の希望や生活に着目しアセスメントを行い、目標達成に向け職員全員で取り組みを行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主治医や他医療機関とも連携を図り、利用者の情報共有や受け入れを行っている。 夜間や土日の救急対応にも対応できている。	利用者の主治医を全て把握し、日頃の状態や急変時、緊急時の連携を図る。 緊急マニュアルの見直しを行い、介護職員・看護師間の対応の統一を図る。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	自治会や地域の住民と協力し、介護難民者へ向け、介護申請の代行や、本来看多機の利用対象外の支援の方にも必要なサービスを受けることが出来るよう、介助を行った。	引き続き自治会や民生委員と連携し、地域住民に対する対応を行っていく。 地域行事や活動に参加する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		医療機関や地域連携室と連携し、医療度の高い方や毎日の訪問看護が必要な方の受入れを行った。看取り対応者の受入れを行い、職員が協力し諦めない精神で対応し、看取り期を脱することができるまでに回復することができた。	介護支援専門員・看護・介護が協力し、計画目標の達成を目指す。 医療度の高い方や看取りにも対応し、在宅生活の維持・継続を支援する。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			事業所の理念に基づき取り組みを行って頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			今後異動や新規に入職してきた人にも理念の周知と理解を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			経験年数に応じた育成計画があった方が望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 年度初めに各自で今年度の目標を設定し目標に向かって研修計画を立てている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			積極的に研修に参加する姿が素晴らしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 各自で施設外の研修に参加し、各々がスキルアップを行えている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○				利用者の対応を行うためにはまず、情報の共有が大切。「知らなかった」となることのないよう、常に新しい情報を共有してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組み内容] 毎月の看多機会会議内で利用者状況の話し合いを行っており、介護方法や対応の見直しなどを行っている。日々の昼礼の時間にもミニカンファレンスを開催し情報の共有を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者家族としての意見を頂けることがあり、サービスに取り入れている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			風通しの良い職場環境づくりに力を入れてほしい。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 管理者・介護支援専門員・介護、看護リーダーがそれぞれに相談に応じ、業務内容の改善に働きかけており、誰にでも話せる環境を作っている。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			利用者の対応を行うためにはまず、情報の共有が大切。「知らなかった」となることのないよう、常に新しい情報を共有してほしい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 管理者、看護師、介護支援専門員が知り得た情報や家族からの情報はすぐに申し送りノートや昼礼にて情報の共有と更新を行っている。					
(5) 安全管理の徹底							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			運営推進会議内でも細かい事故報告が行えている。送迎の際の交通事故には十分に注意してほしい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 事故対応マニュアルに沿って対応を行っている。ヒヤリハットや事故報告に対しては速やかに報告書を作成し、職員間で対策を立案。今後の再発予防に努めている。 送迎の際は職員の健康管理や注意事項などの申し送りを行うなどの対策を行っている。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			夢前看多機は洪水災害の警戒地域でもあるため、十分な備えと災害時の対応について日頃から準備をしてほしい。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] BCPの作成や見直し、研修などを行い緊急時の対策について周知している。 定期的な訓練も実施できている。 備蓄品確保の見直しを行い、災害時に向けた体制を確保できた。					
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			24 時間の様子を知ることは難しいが、家族の負担となりやすい夜間の様子は確認してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			看護師・介護士が共に働く特徴を生かし、それぞれの専門性を発揮してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			家族と良好な関係を築き、家族の負担軽減を考え計画作成することも必要。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			機能訓練を希望されている人は多い。看護師・介護士が生活内で行える機能訓練を継続してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			今後起こり得る状況についての理解は大切。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			計画の適宜見直しは大変な作業だが重要なこと。頑張っ てほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			<p>宿泊がほぼ満床状態でサービスの偏りがあるようにも感じる。家族・利用者本人の思いも汲み取り対応することが望ましい。</p>	<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			<p>体調の変化などに対して、救急搬送や入院など早期に対応できている。今後も利用者の状態をよく見て迅速な対応を行ってほしい。</p>	<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			<p>情報を共有し、それぞれの専門性を生かして、連携をとりながら対応してほしい。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
							応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			看護職、介護職それぞれの専門性を生かし、連携が取れることが望ましい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 看護、介護からのお互いの情報を昼礼や会議の時間を通じて情報を共有。その都度対策を検討している。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			専門的な話になるため、介護職員にもわかりやすく説明し、情報を共有してほしい。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 昼礼や会議、申し送りのノートを用いて利用者の病状や治療に関する内容などを看護師よりタイムリーに発信されている。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			看護小規模多機能のサービスはやや難しいので丁寧な説明を期待します。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 利用開始時に時間をかけ説明を行い、その後も質問があれば、その都度説明し理解を得ている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			看護小規模多機能のサービスはやや難しいので丁寧な説明を期待します。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 出来るだけわかりやすい文章、言葉で説明するように努めている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			一般の方が医療処置や医療機器を取り扱うことはハードルが高い。看護師が訪問できる強みを生かし、丁寧な対応を行ってほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看護師より訪問の際に説明を実施。実際に家族に実施して頂き、手順等も確認している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			家族・本人、一方的な希望を聞くのではなく、上手くどちらの希望もサービスに反映されることを期待しています。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用開始時より利用者本人・家族の意向やサービス内容の希望を確認し対応している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			将来の状況の変化に対応できるように、利用者の状態の把握に努めてほしい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 契約の際に将来的なことを含め相談を行っている。入院や入所なども視野に入れ検討できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			家族の精神的フォローもお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			安心して退院を迎えられるよう支援してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			緊急時に備えあらかじめ相談しておくことが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ できて いる	あまり できて いない	全く できて いない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			夜間など看護師不在時は、連絡体制を整え、スムーズな対応をお願いしたい。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医または協力病院と連携を図り緊急時の対応に備えている。休日夜間でも、当番の看護師が訪問し医師へ連絡。救急対応の手続きも行っている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			地域包括支援センターや地域の自治会、住民からの情報を活用し、地域との連携を深めてほしい。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議の際に、地域包括支援センター職員との情報交換や意見をいただき、地域のサロンにも参加している。					
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		運営推進会議について地域の方には認知されていないため難しい。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 議事録はファイリングしてあり、誰でも見られる環境を整えているが、情報発信は行っていない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			今後も看多機として、地域に果たす役割の啓発活動を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 事業所独自の新聞を作成し配布している。地域のサロンに参加し、事業説明会や介護相談、健康相談を行った。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 指定なし					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		介護職員の対応では難しいこともある為、今後の検討課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 開設当初より気管切開を行っている利用者を受入れているが、看護師がオンコール対応となる夜間には対応が難しい。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	様々なケースに柔軟に対応してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 体制が整っていない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			自宅での看取りなど柔軟に対応してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			法人の組織の中に地域包括支援センターがある。職員が地域包括ケアシステムについて学ぶ機会があってもいいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				今後も住み慣れた地域や自宅での生活が継続できるよう、在宅生活を支援してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている				○	積極的に地域に情報の発信を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			これからも、家族の介護負担の軽減を図ることで、在宅生活の継続ができるように支援してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>身体状況の変化などにより福祉用具や排泄用品の提案などを行い、利用者の安全と家族の介護負担の軽減を図り、在宅生活の継続に繋げるように努めた</p> <p>退院時には訪問や施設で家族への介護指導を行い、不安なく在宅生活を送れるよう援助を行った。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 通い・宿泊・訪問と包括的なサービスを計画し支援を行うことで、在宅生活の継続に繋げている。	ほぼ全員について早期に達成することを望む。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医と連携し訪問看護、施設利用時の医療的ケアに対応している。急変時など看護師の訪問や指導を行い不安の軽減に努めている。	介護に加え、医療面においてもサポートが受けられることは安心感につながる。今後の活動に期待する。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 契約時にすべての利用者、家族に看取りに関する意思の確認を行っている。自宅での看取りには不安がある方に対しては事業所内で看取りを行い、家族にも宿泊していただくなど、利用者・家族の安心感につながるよう支援している。</p>	看取りに対する家族の不安は強いと思うが、相談し頼れる存在がいることは大きいと思う。今後も安心感につながる支援を行って下さい。	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>